

社会資本整備審議会 道路分科会

第22回近畿地方小委員会

議事概要

1. 日 時 平成30年7月5日(木) 10:00~11:40
2. 場 所 近畿地方整備局 新館 3階 A会議室
3. 出席者

[委員]

飯塚 ^{いづか}	敦 ^{あつし}	神戸大学 都市安全研究センター 教授
浦尾 ^{うらお}	たか子 ^こ	京南倉庫株式会社 常務取締役
小林 ^{こばやし}	潔司 ^{きよし}	京都大学経営管理大学院 教授
玉岡 ^{たまおか}	かおる	作家/大阪芸術大学大学院 教授/兵庫県教育委員
宗田 ^{むねた}	好史 ^{よしふみ}	京都府立大学 副学長・和食文化研究センター長・ 生命環境学部 教授
◎山下 ^{やました}	淳 ^{あつし}	関西学院大学法学部 教授 ※敬称略、五十音順 ◎は委員長

4. 議 事

(1) 計画段階評価について

国道8号 彦根~東近江
播磨臨海地域道路

(2) 議事概要

<委員からの主な意見>

■計画段階評価について

[国道8号 彦根~東近江]

- ・この地区に大きな工場と産業の立地があるのは、やはり敦賀・北陸方面と四日市・中京圏を含む東西へのアクセスを視野に入れた産業活動がなされているからである。この地域内だけの図ではなく、広域的な図を見せられる方が良い。
- ・単純な事業費・コストだけでなく、現状がかなり厳しい状況の場合は、できるだけ早く改善をするという時間の要素も重要である。
- ・新たに整備される道路の沿道利用は、将来も見越した土地利用計画と調整され、併せてアクセスコントロールすることが望ましい。土地利用計画の話は道路事業者が直接できることではないので、自治体がしっかりと対応を考え、それに見合った土地利用を目指さなければならない。
- ・第2回意見聴取の内容については承認された。

[播磨臨海地域道路]

- ・播磨臨海地域は関西の重要な地域であり、定時性、速達性の確保のためにも本路線は重要なインフラ。住民の生活や産業の発展のためにも早期に進めていただきたい。

- ・播磨地区は工業整備特別地域に指定され、全国でも有数の工業地域にもなっている。一日も早く工業地域を結ぶ道路を作るべきである。
- ・トラックの大型化、自動運転技術の進歩などもあるので、どれぐらい先を想定して構造等を検討して行くのが大きなポイント。
- ・リダンダンシーの観点として、耐災害性のほか、「老朽化に対応するための代替路」というものを位置付けても良い。
- ・早期整備のための事業手法の検討も望まれる。
- ・播磨臨海地域道路に必要な機能、前提条件について承認された。

－ 以 上 －